

令和3年度 草津市立クリーンセンター年間報告書

令和3年度のクリーンセンターへ搬入されたごみ量や運転状況等を報告書として以下のとおりまとめた。

1 ごみの搬入量

令和3年度にクリーンセンターへ搬入された総ごみ量は38,620.00tで、令和2年度の38,743.72tと比較すると、0.32%(123.72t)の減となった。

内訳を見ると家庭系ごみは2.06%(546.53t)の減、事業系ごみは3.48%(422.81t)の増であった。

家庭系ごみ量は、全体で546.53tの減となった。これは前年度と比較して焼却ごみ量が239.24tの減となり、破碎ごみおよび粗大ごみの搬入量が合わせて277.37tと大きく減となったことによるものである。この減の要因としては、令和3年10月1日からクリーンセンターへのごみの直接持込について、事前申請(予約日制)制度を導入したことにより、ごみの持込量が抑えられたことによるものと考えられる。

事業系のごみ量は令和2年度と比較すると、422.81tの増となり事業活動はやや上向き傾向にあると思われるが、令和元年度の事業系ごみ量13,537.66tと比較すると953.21tの減となっており、新型コロナウイルス感染症拡大の影響等により、引き続き事業活動は停滞しているものと考えられる。

【ごみ搬入量】

		令和3年度	令和2年度	対前年度比
年間	総ごみ量	38,620.00 t	38,743.72 t	▲0.32%
	家庭系	26,035.55 t	26,582.08 t	▲2.06%
	事業系	12,584.45 t	12,161.64 t	3.48%

【市民1人1日当たりのごみ量】

市民1人1日当たりのごみ量を前年度と比較すると、1.36%の減となった。

	令和3年度	令和2年度	対前年度比
1人1日当たりごみ排出量	770.83g	781.42g	▲1.36%

$$1人1日当たりのごみ排出量 = 38,620.00t / 365日 / 137,266人 \times 1000 \times 1000 \\ = 770.83 \text{ g} / 人 \cdot 日$$

○総ごみ量 38,620.00t (クリーンセンターへ搬入された総ごみ量)

○人口 137,266人 (住基人口、令和3年10月1日)

参考

※国の定義に合わせた1人1日当たりのごみ排出量

国の定義に合わせ、ごみ搬入量に資源回収量(集団回収含む)を加えた1人1日当たりのごみ排出量を算出すると、次のとおりとなる。

$$1人1日当たりのごみ排出量 = (38,620 + 2,466)t / 137,266人(住基人口 令和3年10月1日) / 365日 \times 1000 \times 1000 = 820 \text{ g} / 人 \cdot 日 \text{ (令和3年度)}$$

(環境省発表一般廃棄物処理事業実態調査令和2年度の実績)

	全国	滋賀県	草津市
1人1日当たりのごみ排出量	901g	822g	834g

○環境省{一般廃棄物の排出及び処理状況等(令和2年度)}のデータ

○現時点で発表されている環境省の最新データは令和2年度のものです

※第3次草津市一般廃棄物(ごみ)処理基本計画による、1人1日当たりのごみ排出量は次のとおりである。

市民1人1日当たりのごみ量を、前年度と比較すると、1.01%の減となった。

	令和3年度	令和2年度	対前年度比
1人1日当たりごみ排出量	782g	790g	▲1.01%

$$1人1日当たりのごみ排出量 = (41,086t / 143,880人) / 365日 \times 1000 \times 1000 \\ = 782 \text{ g} / 人 \cdot 日 \text{ (令和3年度)}$$

○総ごみ量 41,086t (家庭系+集団回収+事業系)

○人口 143,880人 (国勢調査に基づく人口フレームによる人口)

【ごみ搬入量の最大月および最小月】

ごみ搬入量が最も多かった月は5月、最も少なかった月は2月であった。
ごみ種ごとの最大月・最小月は、下記のとおりとなった。

ごみ種	最大月	最小月	ごみ種	最大月	最小月
焼却ごみ類	11月	2月	陶器・ガラス類	10月	2月
プラスチック製容器類	3月	10月・12月	乾電池	12月	7月
ペットボトル類	8月	2月	蛍光管	12月	8月
空き缶類	8月	2月	粗大ごみ	5月	1月
飲・食料用ガラスびん類	1月	11月	古紙類	4月	11月
破砕ごみ類	4月	2月			

1-1 焼却ごみ類（事業系一般廃棄物含む）

焼却ごみ類の全搬入量は32,896.54tで、前年度と比べ0.58%（190.34t）の増となった。

内訳を見ると家庭系は1.16%（239.24t）の減、事業系は3.53%（429.58t）の増であった。事業系焼却ごみ類の増については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受けた事業活動が回復しつつあると考えられる。

【ごみ搬入量】

	令和3年度	令和2年度	対前年度比
焼却ごみ量	32,896.54t	32,706.20t	0.58%
家庭系	20,313.00t	20,552.24t	▲1.16%
事業系	12,583.54t	12,153.96t	3.53%

1-2 プラスチック製容器類

プラスチック製容器類の搬入量は1,036.97tで、前年度と比べ0.98%（10.22t）の減となった。

【ごみ搬入量】

	令和3年度	令和2年度	対前年度比
家庭系	1,036.97t	1,047.19t	▲0.98%

1-3 ペットボトル類

ペットボトル類の搬入量は 329.16t で、前年度と比べ 5.09% (15.93t) の増となった。

【ごみ搬入量】

	令和 3 年度	令和 2 年度	対前年度比
家庭系	329.16t	313.23t	5.09%

1-4 空き缶類

空き缶類の搬入量は 247.68t で、前年度と比べ 2.21% (5.59t) の減となった。

【ごみ搬入量】

	令和 3 年度	令和 2 年度	対前年度比
家庭系	247.68t	253.27t	▲2.21%

1-5 飲・食料用ガラスびん類

飲・食料用ガラスびん類の搬入量は 716.97t で、前年度と比べ 2.65% (19.53t) の減となった。

【ごみ搬入量】

	令和 3 年度	令和 2 年度	対前年度比
家庭系	716.97t	736.50t	▲2.65%

1-6 破碎ごみ類

破碎ごみ類の搬入量は 719.24t で、前年度と比べ 14.13% (118.37t) と大きく減となった。この減となった要因は直接持込が事前申請制度になったことによるものと考えられる。

【ごみ搬入量】

	令和 3 年度	令和 2 年度	対前年度比
家庭系	719.24t	837.61t	▲14.13%

1-7 陶器・ガラス類

陶器・ガラス類の搬入量は 308.91t で、前年度と比べ 9.97% (34.21t) の減となった。この減となった要因は直接持込が事前申請制度になったことによるものと考えられる。

【ごみ搬入量】

	令和3年度	令和2年度	対前年度比
家庭系	308.91t	343.12t	▲9.97%

1-8 古紙類

古紙類の搬入量は 1,252.72t で、前年度と比べ 2.18% (26.72t) の増となった。

【ごみ搬入量】

		令和3年度	令和2年度	対前年度比
家庭系	古紙類	1,252.72t	1,226.00t	2.18%
	(新聞・広告)	356.00t	345.52t	3.03%
	(雑誌・雑紙)	385.47t	409.32t	▲5.83%
	(段ボール)	511.25t	471.16t	8.51%

段ボールが、前年度と比較し 8.51%(40.09t) の増となり、令和元年度(369.10t) の搬入量と比較しても増加傾向が続いているのは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で外出を控える人が多く、宅配等の利用者が増えたことが要因であると考えられる。

1-9 乾電池

乾電池の搬入量は 24.27t で、前年度と比べ 6.29% (1.63t) の減となった。

【ごみ搬入量】

	令和3年度	令和2年度	対前年度比
家庭系	24.27t	25.90t	▲6.29%

1-10 蛍光管

蛍光管の搬入量は 9.49t で、前年度と比べ 12.78% (1.39t) の減となった。

【ごみ搬入量】

	令和 3 年度	令和 2 年度	対前年度比
家庭系	9.49t	10.88t	▲12.78%

1-11 粗大ごみ

粗大ごみの搬入量は 1,078.05t で、前年度と比べ 13.33% (165.77t) の減となった。

前年度と比較して、家庭系粗大ごみは 12.86% (159.00t) の減、事業系粗大ごみは 88.15% (6.77t) の減であった。この減となった要因は直接持込について、事前申請制度(予約制)を導入したことの効果と考えられる。

【粗大ごみ搬入量】

	令和 3 年度	令和 2 年度	対前年度比
粗大ごみ量	1,078.05t	1,243.82t	▲13.33%
家庭系	1,077.14t	1,236.14t	▲12.86%
事業系	0.91t	7.68t	▲88.15%

※事業系粗大ごみは、木質系のものに限る。

【予約申込による委託収集件数(実績)】

	令和 3 年度	令和 2 年度	対前年度比
委託収集件数	7,998 件	7,754 件	3.15%
委託収集点数	17,270 点	16,521 点	4.53%

(参考) 事前予約申込件数 8,926 件(電話 5,684 件、インターネット 3,242 件)

【粗大ごみ直接持込件数】

粗大ごみの直接持込件数は次のとおりとなった。

前年度の件数と比較して、全体で 23.70%の減、家庭系は 23.45%の減、事業系は 77.08%の減となった。

	令和 3 年度	令和 2 年度	対前年度比
家庭系	15,622 件	20,407 件	▲23.45%
事業系	11 件	48 件	▲77.08%
ボランティア・不法投棄	34 件	66 件	▲48.48%
その他	11 件	27 件	▲59.26%
合 計	15,678 件	20,548 件	▲23.70%

2 最終処分(埋立)したごみ量

可燃ごみ焼却処理後の灰(焼却主灰・焼却飛灰)および、不燃物(陶器・ガラス類)ごみについては、大阪湾広域臨海環境整備センターが管理する、大阪湾神戸沖処分場に運搬し適正に埋立処分した。

尚、主灰および飛灰の含有化学物質等(鉛、ヒ素その他)については、受入先処分場の基準を満たしており問題なかった。※別添分析結果のとおり

	令和 3 年度	令和 2 年度
焼却主灰	2,650t	2,727t
焼却飛灰	1,080t	1,065t
不燃物	337t	372t

※焼却主灰・・・可燃ごみを焼却処理した際に残った燃え殻

※焼却飛灰・・・焼却時に発生する排ガス中に含まれる灰(ばいじん)

その他、石綿が混入していると思われる処理困難物であるスレート、珪藻土マットについては、他市の廃棄物処理施設へ運搬し、適正に埋立処分した。

スレート・珪藻土マット埋立処分量	0.57t
------------------	-------

※令和 2 年度実績なし

○クリーンセンターへのごみの直接持込に係る、事前申請制度について

クリーンセンターへのごみの直接持込については、当初クリーンセンターの開場時間内であれば、搬入回数やごみ量等について特に制限なく受入を行っていたが、土曜日、祝日には大勢の市民の方がごみを持ち込まれ、クリーンセンター場内駐車場が満車となるだけでなく、外周道路にも持込車両が溢れ出て列となる状態となった。また、ごみの持込に長時間待つていただくことになり、その日の開場時間内に受入できないなど、直接持込を利用される市民の方に御不便をかけることになった。

この事態を解消すべく、令和3年10月1日からクリーンセンターへのごみの持込について事前申請制度(予約制)を導入し、受入日時および搬入車両台数等に一定の制限を設けたことで、待ち時間も少なく安全でスムーズなごみの受入が可能となった。

○事前申請制度開始後の、持込ごみ搬入件数および重量の比較

事前申請制度を開始した、令和3年10月～翌年3月の期間と、前年度の同月の期間において、一般(家庭系+事業系)で直接搬入された、「全ごみ種」と、全ごみ種の内から搬入量の多い「粗大ごみ類」・「焼却ごみ類」・「破碎ごみ類」について、持込件数と重量を抽出して比較すると次のとおりとなった。

※ボランティア、不法投棄等のごみは含まない。

【全ごみ種】

持込件数で46.4%(7,734件)の減、重量で23.1%(243.46t)の減となった。

		10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和	件数	1,608	1,562	1,805	1,273	1,201	1,486	8,935
3年度	ごみ量(t)	117.46	163.88	143.84	149.33	137.36	97.75	809.62
令和	件数	3,177	2,952	3,118	2,247	2,343	2,832	16,669
2年度	ごみ量(t)	178.11	195.06	249.85	123.89	142.78	163.39	1,053.08

【粗大ごみ】

持込件数で 38.4%(3,705 件)の減、重量で 31.1%(146.90t)の減となった。

		10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和	件数	1,034	991	1,195	832	809	1,082	5,943
3年度	ごみ量(t)	55.74	52.76	66.97	42.51	46.56	60.25	324.79
令和	件数	1,806	1,625	1,635	1,341	1,454	1,787	9,648
2年度	ごみ量(t)	83.95	77.64	78.88	64.53	75.81	90.88	471.69

【焼却ごみ類】

持込件数で 59.3%(1,405 件)の減、重量で 51.0%(59.85t)の減となった。

		10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和	件数	213	183	216	104	105	144	965
3年度	ごみ量(t)	12.38	10.36	12.29	5.24	7.67	9.61	57.55
令和	件数	468	492	450	288	287	385	2,370
2年度	ごみ量(t)	23.02	24.36	20.78	13.53	15.76	19.95	117.40

【破碎ごみ類】

持込件数で 71.5%(1,191 件)の減、重量で 64.7%(36.48t)の減となった。

		10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
令和	件数	82	77	100	72	66	78	475
3年度	ごみ量(t)	3.34	3.16	4.13	2.98	3.34	2.99	19.94
令和	件数	289	304	371	240	220	242	1,666
2年度	ごみ量(t)	9.61	11.63	12.23	7.43	7.25	8.27	56.42

【まとめ】

事前申請制度を導入し、持込に一定の制限を設けたことで、持込まれた全てのごみ種において、件数で 46.4%(7,734 件)の減、重量で 23.1%(243.46t)の減となった。また、年々搬入量が増加し続けていた破碎・粗大ごみはそれぞれ大幅な減となり、ごみ量の抑制効果が得られる結果となった。

3 ごみの資源化

令和3年度にクリーンセンター施設内で資源化したごみの量は4,129.32tであった。

【クリーンセンターでのごみの資源化量】

	令和3年度	令和2年度	対前年度比
資源化量	4,129.32t	4,201.90t	▲1.73%

注) 町内会等が実施している資源回収分は含まず。

【町内会等各種団体が実施している資源回収量】

令和3年度に、資源として集団回収した古紙・古布等は2,466.25tであった。

町内会、各種団体等の資源回収量は前年度と比較して4.61%(119.32t)の減となり、平成25年度(4,551t)をピークに年々回収量が大きく減となっている状況である。その背景として、インターネットやスマホ等の電子情報の拡大により、情報を紙媒体(新聞・情報誌等)で収集することが少なくなっているのが要因であると考えられる。

古布については、令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で業者回収が一時停止するなど、回収量が激減していたが、令和3年度は、前年度と比較し58.82%(48.74t)の増となった。しかしながら、令和元年度の208.95tと比較するとまだまだ少ない状況である。

【古紙類・古布集団回収量】

	令和3年度	令和2年度	対前年度比
段ボール	694.95t	727.18t	▲4.43%
新聞	1,026.11t	1,091.33t	▲5.98%
雑誌	613.58t	684.19t	▲10.32%
繊維類(古布)	131.61t	82.87t	58.82%
合計	2,466.25t	2,585.57t	▲4.61%

【市外搬出ごみ量、および資源化量（市町村協議したもの）】

市内の各事業所から発生した、刈草・剪定枝・木屑、食品廃棄物等について、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律第6条第3項」に基づき市町村協議し、市外へ搬出し処理したごみ量は、1,055.11tで、その内、堆肥や飼料として資源化した量は、1,049.15tであった。

また、市外に搬出したごみのうち資源化されなかった5.96tについて、不燃物(スレート・珪藻土マット)0.57tは埋立処分、および動物の死骸等5.39tは動物霊園等で焼却処分するなど、いずれも適正に処分を行った。

【市外処理実績】

	令和3年度	令和2年度	対前年度比
市外搬出量	1,055.11t	1,091.74t	▲3.36%
市外資源化量	1,049.15t	1,085.85t	▲3.38%

【総ごみ量と総資源化量】

市内で発生した総ごみ量は、42,211.36tで前年度と比較すると、0.70%(298.16t)の減、総資源化量は、7,714.72tで、3.11%(247.74t)の減となった。

【総ごみ量・資源化量】

	令和3年度	令和2年度	対前年度比
総ごみ量	42,211.36t	42,509.52t	▲0.70%
総資源化量	7,714.72t	7,962.46t	▲3.11%

※総ごみ量＝ クリーンセンター搬入ごみ量＋資源回収量(町内会等)
 ＋市外ごみ搬出量＋市内刈草(堆肥)発生量
 ＝ 38,620.00t＋2,466.25t＋1,055.11t＋70.00t ＝ 42,211.36t

※総資源化量＝クリーンセンターで資源化した量＋資源回収量(町内会等)
 ＋市外搬出ごみの内資源化した量＋市内で刈草を堆肥化した量
 ＝ 4,129.32t＋2,466.25t＋1,049.15t＋70.00t ＝ 7,714.72t

【ごみ資源化率】

	令和3年度	令和2年度
資源化率	18.3%	18.7%

$$\begin{aligned} \text{資源化率} &= \text{総資源化量} / \text{総ごみ量} \times 100 \quad (\%) \\ &= 7,714.72\text{t} / 42,211.36\text{t} \times 100 = 18.3\% \end{aligned}$$

※一般廃棄物(ごみ)処理基本計画における資源化率、令和3年度目標値 24.0%

3-1 金属類 資源化量

破碎ごみ類、粗大ごみや空き缶類から出た金属類の資源化量は次のとおりであった。

【資源化量】

	令和3年度	令和2年度	対前年度比
スチール(破碎)	67.54t	79.09t	▲14.60%
アルミ(破碎)	7.08t	7.93t	▲10.72%
屑鉄	369.64t	437.36t	▲15.48%
電線	3.80t	6.88t	▲44.77%
空き缶	252.85t	258.06t	▲2.02%
合計	700.91t	789.32t	▲11.20%

※金属類の買受業者に売却し、資源化。

3-2 びん類 資源化量

飲・食料用びん類の資源化量は、次のとおりであった。

【資源化量】

	令和3年度	令和2年度	対前年度比
無色	335.34t	353.51t	▲5.14%
茶色	191.56t	195.67t	▲2.10%
その他	179.21t	167.28t	7.13%
合計	706.11t	716.46t	▲1.44%

※無色および茶色びんは、リサイクル(カレット)工場に売却し資源化。

※その他の色のびんは、(公財)日本容器包装リサイクル協会を通じて資源化。

3-3 プラスチック、ペットボトル 資源化量

容器包装プラスチック、ペットボトルの資源化量は次のとおりであった。

【資源化量】

	令和3年度	令和2年度	対前年度比
容器包装プラスチック	1,000.87t	1,003.95t	▲0.31%
ペットボトル	302.96t	287.76t	5.28%

※容器包装プラスチックとペットボトルは、(公財)日本容器包装リサイクル協会を通じて資源化。

3-4 乾電池・蛍光管 資源化量

乾電池、蛍光管の資源化量は、次のとおりであった。

【資源化量】

	令和3年度	令和2年度	対前年度比
乾電池	27.66t	27.43t	0.84%
蛍光管	6.64t	9.87t	▲32.73%

※乾電池・蛍光管の処理業者に委託し、資源化。

3-5 古紙類 資源化量

古紙類(新聞・広告、雑誌・雑紙、段ボール)の資源化量は、次のとおりであった。

【資源化量】

	令和3年度	令和2年度	対前年度比
新聞・広告	356.00t	345.52t	3.03%
雑誌・雑紙	385.47t	409.32t	▲5.83%
段ボール	511.25t	471.16t	8.51%
合計	1,252.72t	1,226.00t	2.18%

※古紙の買受業者に売却し、資源化。

注) 町内会等が実施している資源回収分は、クリーンセンターに搬入されないことから、上記の量には含んでいない。

3-6 小型家電 資源化量

小型家電の資源化量は、次のとおりであった。

「使用済小型電子機器等の再資源化の促進に関する法律」に基づく資源化。

	令和3年度	令和2年度	対前年度比
制度対象品目	127.28t	136.99t	▲7.09%
特定対象品目	2.68t	2.54t	5.51%
合計	129.96t	139.53t	▲6.86%

※小型家電の資源化は、平成30年度から実施。

※制度対象品目：通常家庭で使用する電気機械器具。（電子レンジ、掃除機等）

※特定対象品目：電気機械器具の内、資源性と分別のしやすさから特にリサイクルすべき品目として国がガイドラインで指定するもの。
（携帯電話、ラジオ、デジタルカメラ、ゲーム機等）

※フロン入り小型家電(0.83t)は制度対象品目に含む。

※ガイドライン：「使用済み小型電子機器等の回収に係るガイドライン」

3-7 特定家電 資源化量

家電4品目(テレビ・冷蔵庫・洗濯機・エアコン等)については、家電リサイクル法に基づき資源化。

	令和3年度	令和2年度	対前年度比
家電4品目	0.92t	1.46t	▲36.99%

3-8 処理困難物 資源化量

廃タイヤ・小型二次電池・消火器等の資源化。

	令和3年度	令和2年度	対前年度比
処理困難物	0.57t	0.12t	375.00%

4 一般廃棄物（ごみ）処理基本計画の目標値

令和3年度における、草津市の一般廃棄物（ごみ）処理基本計画（平成30年4月改訂版）の目標に掲げる数値は、下記のとおりであった。

※ 一般廃棄物（ごみ）処理基本計画（平成30年4月改訂版）の最終目標年次は令和3年度

【1人1日当たりの家庭系ごみ排出量（資源ごみ除く）】・・・未達成

令和3年度実績	令和3年度目標値
447 g / 人・日	430 g / 人・日

【1人1日当たりに換算した事業系ごみ排出量】・・・達成

令和3年度実績	令和3年度目標値
251 g / 人・日	285 g / 人・日

【リサイクル率】・・・未達成

令和3年度実績	令和3年度目標値
18.3%	24.0%

5 発電実績

令和3年度 焼却炉その他の各種発電実績および売電料金等は次のとおりである。

○ごみ焼却炉による発電量等

発電量 (焼却炉) kWh	売電量 (関西電力) kWh	買電量 (関西電力) kWh	クリーンセンター消費電力量 kWh	ごみ焼却量 t	売電料金 (関西電力) 円
20,315,310	14,508,988	157,368	5,977,314	34,001.68	180,450,901

※ごみ焼却量1トン当たりの発電量(597kWh/t)、売電料金(5,307円/t)

○その他の発電量(売電対象外)

太陽光発電量 kWh	ガスエンジン発電量 kWh
11,694	1,930

6 見学者

令和3年度のクリーンセンター見学者は、市内の小学4年生や市内外の個人・企業など70団体、延べ2,362人であった。

【クリーンセンター見学者数】

	令和3年度	令和2年度	対前年度比
団体数	70団体	36団体	94.44%
人数	2,362人	1,425人	65.75%

※新型コロナウイルス感染症対策として、マスクや消毒等の予防措置の徹底により、見学者数は、前年度より増加したと考えられる。

7 環境管理

令和3年度における排ガス中のばいじん・硫黄酸化物・窒素酸化物・塩化水素、排ガス・焼却灰中のダイオキシン類の測定結果は、いずれも法で定める基準値以下であった。

7-1 排ガスの測定結果

【排ガス測定結果（年平均）】

	単位	基準値 (法)	自主 基準値	令和3年度	令和2年度
ばいじん	g / N m ³	0.08 以下	0.02 以下	0.002	0.001
硫黄酸化物	(SO _x) K 値	8.76 以下	0.2 以下	0.012	0.015
窒素酸化物	(NO _x) ppm	250 以下	80 以下	43	44
塩化水素	(HCL) mg / N m ³	700 以下	130 以下	4.3	7.6
水銀	μ g / N m ³	50 以下	50 以下	0.30	0.54

7-2 ごみ質（焼却ごみ）の調査結果

【ごみ質（年平均）】（ごみの3成分）

	令和3年度	令和2年度
可燃分	51.55%	55.07%
水分	42.31%	37.37%
灰分	6.14%	7.56%

【ごみ質（年平均）】（ごみの種類別組成）

	令和3年度	令和2年度
厨芥類	5.81%	4.20%
紙・布	58.15%	55.09%
木・竹・わら類	6.36%	9.31%
プラスチック類	27.30%	28.39%
不燃物類	1.01%	0.85%
その他	1.37%	2.16%

7-3 ダイオキシン類の分析結果

【排ガス中のダイオキシン類分析結果】

	単位	基準値 (法)	自主 基準値	1号炉	2号炉
令和3年度	ng-TEQ/N m ³	1	0.1	0.00010	0.000021
				0.00049※	
令和2年度				0.00000065	0.0012

※滋賀県南部環境事務所 立入検査結果

【焼却灰中のダイオキシン類分析結果】

	単位	基準値 (法)	1号炉	2号炉
令和3年度	ng-TEQ/g	3	0	0.0010
令和2年度			0.0020	0.0010

【飛灰中のダイオキシン類分析結果】

	単位	基準値(法)	飛灰
令和3年度	ng-TEQ/g	3	0.21
			0.21
			0.17
			1.0 ※
			0.39
令和2年度			0.38
			0.19
			0.63
			0.69 ※
			0.21

※滋賀県南部環境事務所 立入検査結果

資料

令和3年度年間報告

◆ごみ搬入量 (単位:t)

クリーンセンターへ搬入された総ごみ量

38,620.00

【内訳】

1 家庭系ごみ

ごみ種	処理方式	委託搬入	持込搬入	合計	搬入日数	日平均搬入量	ごみ量割合
焼却ごみ類	焼却	20,053.56	259.44	20,313.00	320	63.48	78.02%
プラスチック製容器類	資源化	1,036.80	0.17	1,036.97	262	3.96	3.98%
ペットボトル類	資源化	328.84	0.32	329.16	234	1.41	1.26%
空き缶類	資源化	246.03	1.65	247.68	222	1.12	0.95%
飲・食料用ガラスびん類	資源化	714.91	2.06	716.97	251	2.86	2.75%
破砕ごみ類	破砕	653.53	65.71	719.24	309	2.33	2.76%
陶器・ガラス類	埋立	286.38	22.53	308.91	234	1.32	1.19%
新聞・広告	資源化	355.93	0.07	356.00	123	2.89	1.37%
雑誌・雑紙	資源化	379.21	6.26	385.47	184	2.09	1.48%
段ボール	資源化	505.56	5.69	511.25	238	2.15	1.96%
乾電池	資源化	24.25	0.02	24.27	53	0.46	0.09%
蛍光管	資源化	9.49	0.00	9.49	103	0.09	0.04%
粗大ごみ	破砕	258.44	818.70	1,077.14	311	3.46	4.14%
家庭系 合計	—	24,852.93	1,182.62	26,035.55	—	87.62	100%

2 事業系ごみ

ごみ種	処理方式	許可業者搬入	持込搬入	合計	搬入日数	日平均搬入量
焼却ごみ	焼却	11,809.07	774.47	12,583.54	310	40.59
粗大ごみ	破砕	—	0.91	0.91	12	0.08
				事業系 総計		12,584.45

◆焼却処理するごみ量および最終処分量 (単位:t)

1 焼却処理するごみ量

32,896.54

2 最終処分量 (フェニックス、他 埋立量)

(単位:t)

	種類	重量	種類	重量	種類	重量	減量率%
フェニックス	灰(焼却灰)	2,650	灰(飛灰)	1,080	不燃物(混ガラ)	337	1-埋立量/ごみ量
その他	処理困難物・他	0.57					89.47
最終処分量合計		4,067.57					

◆再資源化量

(単位:t)

種類	内 訳					合計
金 属	スチール	アルミ	くず鉄	電線	空き缶	700.91
	67.54	7.08	369.64	3.80	252.85	
び ん 類	透 明	茶 色	その他(青・黒)			706.11
	335.34	191.56	179.21			
容リプラスチック、 ペットボトル、 乾電池、蛍光管	容リプラスチック	ペットボトル	乾電池	蛍光管		1,338.13
	1,000.87	302.96	27.66	6.64		
古紙	新聞・広告	雑誌・雑紙	段ボール		センターからの 搬出分含む	1,252.72
	356.00	385.47	511.25			
小型家電・ 特定家電	小型家電 (制度対象品目)	小型家電 (制度対象品目・フロン入り)	小型家電 (特定対象品目)	特定家電 (家電4品目)		130.88
	126.45	0.83	2.68	0.92		
処理困難物	再資源					0.57
	0.57					
再資源化量合計		4,129.32	再資源化率% (再資源化量/ごみ量)			10.69%